

英語科授業案：
教科で育みたい人間像「世界の人々とつながる人」

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学教育学部附属静岡中学校 公開日: 2024-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 戸崎, 紗絵, Christenson, Bjorn メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/0002000495

英語科授業案

教科で育みたい人間像 「世界の人々とつながる人」

授業者 戸崎 紗絵

Bjorn Christenson

- 1 日時 令和5年11月2日(木) 第2時 11:30~12:20
- 2 学級 2年A組 (2年A組教室)
- 3 題材名 You and Me in the Group Discussion

4 本題材で願う学び

互いの思いをくみとりながらグループディスカッションを重ねることを通して、話し手と聞き手の双方のあり方について考えを深め、わかり合いながらやりとりを重ねていくことの楽しさや充実感を味わう。

(学習指導要領との関連：話すこと [やりとり] ウ)

5 これまでの子どもの学び

子どもたちはこれまでに、ペアになって「二つのもののうちどちらがよいか」を考える議題について、自分の意見や考えを理由と共に伝える活動(ディベート)を行ったり、3分程度のプレゼンテーションに挑戦したりしてきた。これらの、話すこと [やりとり] と [発表] の領域の活動を行うことで、子どもたちは以下のような学びを重ねてきた。

それは「話すこと」における視点の変化である。ディベートでは、自分の意見に説得力をもたせるためにはどの順番で何を伝えればよいのかを吟味する姿や、完璧な英語ではなくても自分の知っている単語を駆使して、説明を加えながら自分の思いを伝える姿があった。しかし、思いを伝えることに精一杯になり、相手の意見に対して言及することなく、一方的に自分の意見を伝えるようが見られた。子どもたちは、ALTから “I know your point, but……” や “I agree with your point, but what about A?” といった表現を学びとり、相手の意見にふれながらやりとりできるようになった。このことをきっかけに、子どもたちは、相手の意見と比較しながら自分の意見を伝えることで議論を活発に進めることができるようになることに気づき始めた。また、いかに説得力をもたせて話すか、相手の思いを理解した上での対話とはどのようなものかという視点に着目してコミュニケーションをとらえるようがあった。ディベートを追求することを通して、子どもたちは次のような思いをもった。

・言いたいことを全て言いながら相手の意見に色々言っていくのがディベートで一番おもしろい構成だと思う。英語がわからないと何も言えないし、意見も生まれず、反論もできないまま止まってしまった。文法がわからずとも、とりあえず単語を

つなげてみるということが大切で、クラスメイトは「ああ、こういうことを言いたいのか」と理解してくれる場面が多かった(優しい)。でも頼ってしまった。

・伝えたいことをなんとかして伝えようとして、文法とかはめちゃくちゃだけれど、ニュアンスは伝わるってことがある。これは、自分が伝えるのではなくて、相手になんとか聞きとってもらおうということだから、言い方は悪いけれど、人任せ他人任せで、初心者な感じがする。

(題材の振り返りより)

子どもの振り返りからは、「話し手として何とかして伝えることが大切だ」という思い、「聞き手に頼ってしまった」「話し手としてもっと相手のことを考えて話せるようになりたい」という強い思いが伝わってきた。これらのあられから相手意識の芽生えを感じることができた。

そこで、次の活動では、話し手として「伝えきる」という経験ができるプレゼンテーションを題材として扱った。3分程度のプレゼンテーションを行い、自分たちが伝えたい内容を、視覚資料を用いながら発表した。子どもたちは、題材の途中で自分たちの学びを次のように振り返った。

・実際にやってみて、伝えることの難しさを感じた。自分が伝えたいことはたくさんあるが、辞書を使って表現していったら相手にわかってもらえないことがたくさんあった。特に、自分は難しい語彙を使ってしまいうことが多く、伝えたい部分なのにわかってもらえないことがあった。独りよがりではなく、相手に伝えたいことはどのようなことであ

るかを、シンプルな言葉に言い直して伝えることが大切だと思った。

- ・相手に知ってもらいたいことをたくさん伝えようとしたら、気づいたら英語にすることで必死になってしまい、伝わるかどうかという視点をもたずに伝えてしまっていることに原稿の読み合わせをしてみて初めて感じた。伝えるときは自分が聞き手だったらわかるかどうかを一呼吸おいて考えることが大切だと学んだ。

(題材途中の振り返りより)

このように、ディベートとプレゼンテーションという二つの話す題材を通して、子どもたちは視点を増やしながらかし手として成長しつつある。そのような子どもたちが、話し手と聞き手が入れ替わりながらやりとりを重ねていくグループディスカッションに出会うことで、話し手・聞き手それぞれのあり方について考えを巡らせ、コミュニケーションへの新たな見方や考え方を深めていくことができると考える。

6 題材観

(1) ディスカッションがもつ魅力

① 思いを重ね合わせることができる

ディスカッションには、一つのトピックについてさまざまな角度から思いを伝え合うという性質があり、互いの思いを重ね合わせていくことができるというよさがある。

私たちは親しい友人や家族とおしゃべりや雑談を通して、思いや考えを伝え合いながら生活している。また、家族会議や職員会議、グループ学習など、集団の中で互いの意見を出し合い、問題解決や合意形成を図るために議論を重ねることがある。異なる意見や考えをもつ多様な人々と考えを共有し、問題解決や合意形成をすることは容易ではない。その場にいる一人一人が、互いに相手の考えを理解しようとして質問したり、意見を伝えたりして粘り強く議論を重ね、考えを深めていくことが大切である。思いを重ね合わせていくということは、「わかり合おう」とする思いを重ねていくことであり、互いに充実感と満足感を得ながらやりとりを重ねていくことではないだろうか。相手との意見の相違を感じながらも、相手の真意を確認するために自分の疑問に思うことを質問したり、自分の考えをわかってもらうために共通点を探しながら説明したりするなど、理解し合おうとする意思が必要になるだろう。参加者全員が話し手としても聞き手としても互いの思いをくみとろうという前向きな思いを重ね、わかり合えたという充実感や達成感を得られることがディ

スカッションならではの価値である。

② 話し手としても聞き手としても成長する

ディスカッションには、話し手としても聞き手としても成長できるというよさがある。ディスカッションでは、話し手と聞き手が入れ替わりながら議論が進んでいく。話し手が何を言っているのかがわからない場合は、聞き手はもう一度説明するように依頼したり、質問して内容を確認したりする。また話し手は、聞き手の表情を見て表現を変えながら説明し直したり、相手の発言を直接受けとるのではなく、どのような意図があって質問したのかをくみとりながら伝え直したりする。つまり、話し手も聞き手も心からわかり合おうとしないと議論が進んでいかない。また、話題についていけない人が出てきてしまうこともある。だからこそディスカッションには、会話に積極的にかかわったり、安心して発言できる雰囲気をつくりだそうとしたり、全員が理解できる例で説明したりするなど、互いにわかり合おうとする意思とそのための工夫や行動が必要になる。

ディスカッションは一つのトピックに対してさまざまな角度から思いや考えを伝え合う即興のコミュニケーションである。だからこそ、相手のようすを見て、話し手としても聞き手としてもどのような工夫をすればよいか考えながら参加する必要があるだろう。このように、話し手と聞き手が入れ替わるというディスカッションの性質により、話し手と聞き手の両方のあり方について考えを深めることが可能になる。

(2) 本題材で願う子どもの姿

本題材で願う子どもの姿は「話し手としても、聞き手としても、思いを重ね合わせようとしたり、わかり合おうしたりする姿」である。子どもたちはグループディスカッションを繰り返す中で、議論が盛り上がりながらという問題や「相手の言っていることを理解できない」「伝えたいことが思うように伝わらない」「伝えるための表現がわからない」などの多くの課題に直面するだろう。そのようなときに、どのようにすればそれらの問題を解決できるのかと考えを巡らせ、グループで実践しながら追求していくと考えられる。相手に内容を確認するための表現を調べ、使っていくことで有効性を確かめようとするかもしれない。相手に伝えたいという思いがあれば、自分や相手が共通して知っている英語表現を駆使して、粘り強く伝えようとするだろう。そして、聞き手は相手が粘り強く伝えようと必死になっている姿を見れば、わからないことを質問したり、わかっているところまで自分の言葉でまとめて自分の理解が正しいかを確認したりするだろう。また、

グループでのディスカッションを振り返りながら、困難を感じた場面を確認したり、充実感を抱いた場面を共有したりすることで、思いを重ねることやわかり合うことの難しさや楽しさを実感していこう。思いを重ねることや、わかり合うことの価値を実感しながらディスカッションを重ねていくことを通して、自分だからこそできるコミュニケーションの図り方を追求したり、他者とのかかわり方についての考えを深めたりしていくことを期待している。

この題材を通して、子どもたちがグループディスカッションを重ねていく中で、話し手として相手の表情を見て表現を吟味しながら話をしたり、聞き手として相手の思いを引き出そうと積極的に質問したりするなど、表現することの楽しさを実感し、話し手・聞き手それぞれのあり方について考えを巡らせ、互いが思いを重ね合わせたり、わかり合ったりすることの喜びや達成感を味わうことを願っている。

7 題材構想 (全11時間)

- ①The Encounter with Group Discussion (1～2時)
- ②Group Discussion: The First Stage (3～4時)
- ③Group Discussion: The Second Stage (5～7時：本時は5時)
- ④The Final Stage: “We Are the TEAM!” (8～10時)
- ⑤追求レポート作成 (11時)

8 題材構想における授業者の考え

本題材において、子どもに最も夢中になってほしいのは、やりとりを振り返りながら、グループとしてどのようによりよいディスカッションをめざしていくかを追求していく場面である。そのため、ディスカッションを重ねることを通して、話し手や聞き手としての成長を実感したり、グループディスカッションにおいて大切にしたいことを見いだしたりしながら追求していけるよう題材を構想した。題材前半(①②)においては、子どもたちが、さまざまな相手とのディスカッションを経験しながら、ディスカッションをよりよくする視点を増やしていけるようにした。子どもたちそれぞれが「こうすればよくなりそうだ」「この方法は自分に合っている」のように自分なりの視点をもつことが、題材後半(③④)におけるグループでの追求をより豊かにしていくと考える。

との出会いの後に調べ学習の時間を設定する。ここで調べた内容を実践の中で活用したり、実践後に再度見直したりすることを通して、英語表現を増やしたり、よりよいディスカッションを追求したりすることを期待する。

(2) Group Discussion: The First Stage (3～4時)

The First Stageでは、子どもたちが、ディスカッションの「よりよいコミュニケーションへの視点」をかかわり合いの中から得やすくするために、ディスカッションのテーマを変更せず、メンバーを毎回変えることで、さまざまな人とディスカッションを経験できるようにする。多くの人とかかわることで、英語表現を増やしてだけでなく、表現の選択の仕方や思いの伝え方、相手の思いの引き出し方など、さまざまな視点からコミュニケーションを見つめていくことを期待する。

(1) ディスカッションとの出会いと調べ学習 (1～2時)

本題材においては、子どもたちがディスカッションを実践しながら、よりよいグループディスカッションを追求していくことを大切にする。そのため、ディスカッションとの出会いの場面では、ディスカッションについて説明したり、モデルを示したりすることはしない。子どもたちにとっては、初めての英語によるグループディスカッションとなる。「英語ディスカッション特有の表現はあるのだろうか」といった、ディスカッションをしてみることで湧き上がる疑問や思いを出発点に追求を進められるようにするため、ディスカッショ

(3) Group Discussion: The Second Stage (5～7時)

子どもたちそれぞれが見いだした視点をもとにグループディスカッションをさらに追求していけるよう、The Second Stageではグループのメンバーを変えずに追求する。メンバーを固定することで、英語表現の追求のみならず、グループとしてよりよいディスカッションにするにはどのようにしたらよいかという視点に焦点をおいて追求していくことができると考える。どのような状況、トピックであったとしても、チームとしてフォローし合いながら実践・検証を重ねていき、より

よい「チームとしての」コミュニケーションについての考えを深めていくことを期待する。

**(4) The Final Discussion: “We Are the TEAM!”
(8～10時)**

The Final Discussionでは、チームで行う最後のディスカッションの場をパフォーマンステストとして設定

し、The First StageとThe Second Stageで見いだしてきたことを実践できる機会を設ける。チームとしてよりよいディスカッションを追い求め、互いにわかり合う喜びを知った子どもたちは、その結束力とともにこれまで見いだしたことを出し切り、大きな達成感を得るだろう。

9 予想されるこどものあらわれ

時数	活動、問い	子どものあらわれ
1～2	<p>①The Encounter with Group Discussion 【ディスカッションのイメージを広げ、調べ学習へとつなげる】</p> <p>○日本語でのディスカッションを経験する</p> <p>○英語でのディスカッションを経験する</p> <p>○ディスカッションの調べ学習を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語と英語のディスカッションにはどのような違いがあるのだろうか ・英語でディスカッションするのは難しい ・言いたいことがうまく言えない ・ディスカッションが止まってしまった……どうしたらよいのだろうか ・英語のディスカッションには型があるのかな ・ペアとグループで行うときにはどのような違いがあるだろうか ・ディベートとの違いはあるのだろうか ・ディスカッションするときにはマナーはあるのかな ・英語のディスカッションで使われる表現にはどのようなものがあるだろうか ・英語ディスカッションのコツを調べてみよう
3～4	<p>②Group Discussion: The First Stage 【ディスカッションの経験を重ね、よりよいディスカッションにするための視点を得る】</p> <p>○5分間のディスカッションを同じトピックでグループ編成を変えながら3回行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・練習していけば上手になっていきそうだ ・テーマが同じであればできそうな気がする ・質問をすることで話をつなげることができた ・同じ考えなのに理由はそれぞれ違うことが理解できた ・違う意見だったけれど、理由を聞いたなら以前よりも納得できた気がする ・同じトピックでやっているから、前のグループで誰かが使っていた○○の表現は使えそうだ ・同じ意見を言っているはずなのに、会話が進んでいかない。どうしてだろう ・メンバーが替わると上手くいくときといかないときがある。どうしたらうまくいくのだろうか ・How about you?は便利な表現だけれど、これを繰り返

		返すだけでは会話に深まりは生まれない。どうしたらよいのだろうか
5～7	<p>③Group Discussion: The Second Stage 【グループとしてよりよいディスカッションにするにはどのようにしたらよいか追求する】</p> <p>○メンバーを替えずに同じグループでトピックを変えながらディスカッションを行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマが毎回変わるから、どのようなテーマでも、チームのみんなと英語でフォローし合えるようにしたいな ・「みんなが英語で何と言っているか分からないと伝えたら、「分からなかったら〇〇という英語表現を使って聞いてくれれば、みんなで違う表現を出し合って助け合える」と言ってくれた。みんな優しい! ・相手の意見を聞いて、「こういうこと?」と聞き直したら「違うよ」と言われたことがあった。相手の意見を理解しているつもりでも、理解しきれていないこともあった。わかったつもりになってしまっていたことがあった ・同じグループでやってみて、〇〇さんは話を振るのが得意だと思った。自分は誰かの意見を「こういうこと?」とまとめることが多いことに気づくことができた。ディスカッションの中で自分がどのように貢献していけそうかわかってきたような気がする
8～10	<p>④Final Discussion “We Are the “TEAM!” 【見いだしたことを実践し、チームとしてよりよいディスカッションを追い求める】</p> <p>○出されたトピックについて、話す内容を2分間個人で考える時間をとる。その後、グループでのディスカッションを8分間行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テストだから緊張するかなと思ったけれど、チーム感が出て今までで一番よかった ・緊張もしたし、英語表現がなかなか出てこなかったけれど、〇〇さんが、自分が言いたかったことを英語で言ってくれた ・自分が言葉に詰まったときがあったけれど、他の人が察してくれて言い直すことができた ・このチームで最後のディスカッションだから、全員で助け合って、最後にお互いに「Good Job」って健闘を称え合いたい ・わからないところを聞き流すと会話がいつか止まってしまう。そのままにしないで、みんなでわかっているか確認しながら話しきれたからよかった! ・自分の考えがうまく英語で伝わらなかったとき、ほかの子が察してくれて別の表現で言いかえてくれて、なんとか自分の考えをみんなと共有できた。助け合おうって素敵だ

<p>11</p>	<p>⑤レポート作成 【追求を通して見いだしたことをまとめる】</p> <p>○自分のパフォーマンステストの時間以外はグループでの追求やレポートの作成を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションは以前の追求でやったディベートとは異なる。ディスカッションは勝ち負けじゃないから、話しやすい感じがした ・ディスカッションでは、同じ意見の人もグループにいたから、安心して話すことができた ・ディスカッションでは、聞いたあと話をしないと聞けないから、自分が話をしたあとも仲間の発言をちゃんと聞いていないと聞けない。つまり、話し手としても大切だけれど、コミュニケーションにおいては聞き手としても大切。聞き手と話し手のどちらもコミュニケーションでは大切だと思った ・コミュニケーションは話す人だけが頑張ればよいのではなくて、聞く方も「こういうこと？」と確認するなど積極的に参加することが大切。聞く側がどんどん質問すれば話はつながるけれど、単に質問すればよいというわけではなかった。思いを引き出す質問が大切だと思った ・異なる意見だ、と思っていたけれど、そう考える理由を聞いていくと根拠の部分は納得できることがあった。意見が異なるからといって知ろうとしないのではなくて、自分から相手に歩み寄っていかないとわかり合えないことがわかった ・ディスカッションはわかったふりをしてしまうと、会話が絶対にどこかで止まってしまうことに気づいた。全員がしっかりと理解できるまで粘って、共通理解を図りながら進めていくことが大切だと思った ・最初は英語でディスカッションは難しいと思ったけれど、みんながわかる英単語や身振り・手振りを使って理解し合って進めていけることがわかった。確かに日本語みたいにテンポよくは進まないけれど、お互いに理解し合う過程がとても楽しかったし、みんなが一つになっている感じがした
-----------	---	--

参考文献：長尾確 (2018)『ディスカッションを科学する 人間と人工知能の共生』慶應義塾大学出版会
 西口利文・植村善太郎・伊藤崇達 (2020)『グループディスカッション 心理学から考える活性化の方法』金子書房